

小学校
(学童期)

特別支援教育推進を目指して



特性に合わせた配慮が必要です

学童期の発達課題

【低学年】

学校や地域での生活を通して、社会的なスキルを習得し、集団生活への適応力を向上させることがねらいとなります。

そのための課題としては、次のようなものがあります。

- ・聞く、話す、読む、書く、計算するなど基礎的な学習能力を向上させる。
- ・集団生活のルールを学ぶとともに、友達などとの関わりを通して、自己統制を覚える。
- ・公共の交通機関の利用や、買い物などを通して、社会的な習慣やマナーを学ぶ。
- ・友達と親しい関係をもてるようになる。

【高学年】

主体的に行動できるように、社会的な生活能力を向上させるとともに、社会の成員としての認識を高めることがねらいとなります。そのため課題としては、次のようなものがあります。

- ・学習したものを生活の場に活かすことができる。
- ・自己統制力を高め、他の人と協調して課題を成し遂げることを学ぶ。
- ・いたわり、慰め、励ましなど、他者への情緒的な関わりがもてるようになる。
- ・社会的なマナーを獲得し、場にふさわしい行動ができる。
- ・小遣いで金銭管理を学習する。
- ・家事を手伝うことで生活能力を高める。

下野市では、学校、保護者、関係機関との連携のもと、児童生徒の個々の特性に応じた支援をより充実させ、子どもたち一人一人が「のびのび輝く下野の子」に育つよう、『特別支援教育推進計画』の策定を推進しています。

下野市の特別支援教育の情報をシリーズでご紹介しています。

認知の偏り、対人関係やコミュニケーションの困難さがあると、これら一つ一つの課題を達成させることが難しくなります。しかし、正しい理解と適切な支援によって、成長を促し困難さを軽減することができるとです。

支援の手立ての基本

【安心して課題に取り組める環境の設定】

「できた」「もつとやってみよう」という気持ちを高めることが大切です。

そのためにも、落ち着いて課題にチャレンジできる環境、温かく支援してもらえる協力関係などを整えていく必要があります。

【課題の分析と評価】

難しいと思われる課題であっても、手順をわかりやすく示すと達成できることがあります。課題達成への道筋を考え段階的に示すことは効果的です。

また、課題達成に必要な力を「わかる(知識)」「できる(技術)」「かわる(社会性)」に分けて評価し、つまづきを克服できるようにしましょう。

- ・課題例「ドッジボールに参加できる」
- 知識…ルールを知っていますか？
- 技術…ボールを投げる、受け止めることはできますか？
- 社会性…ボールを当てられても泣いたり怒ったりせず楽しめますか？

支援のポイント

【「コミュニケーション」】

◇一方的に自分の関心のあることを話してしまいます。

↓相手の話も聞き、交互に話すことを教えましょう。

◇話し言葉は消えてしまうので、理解することが難しい場合があります。

↓絵や図、文字やジェスチャーなどの視覚的な手がかりを用いて伝えましょう。

◇相手の言った言葉の裏にある気持ちを受け止めることが難しいため、友達とトラブルになることがあります。

↓友達がどのような気持ちで言ったのかを教え、誤解したりされたりすることがないようにしましょう。

【「かんしゃく・パニック」】

◇感覚の過敏さによる不快感や、状況が理解できないこと、先の見通しがもてない不安感から、かんしゃくやパニックを起こすことがあります。

↓安全に気をつけ、気持ちが落ち着くまでは、そっとしておいてあげましょう。

↓原因がわかる場合は、その原因となるものを取り除き、今後イライラしたときに、どのように行動したらよいのかを教えましょう。

↓活動の予測や状況の理解ができるように伝え方を工夫しましょう。